

あなたも 今日から サポーター

知ってほしい! 知的障害



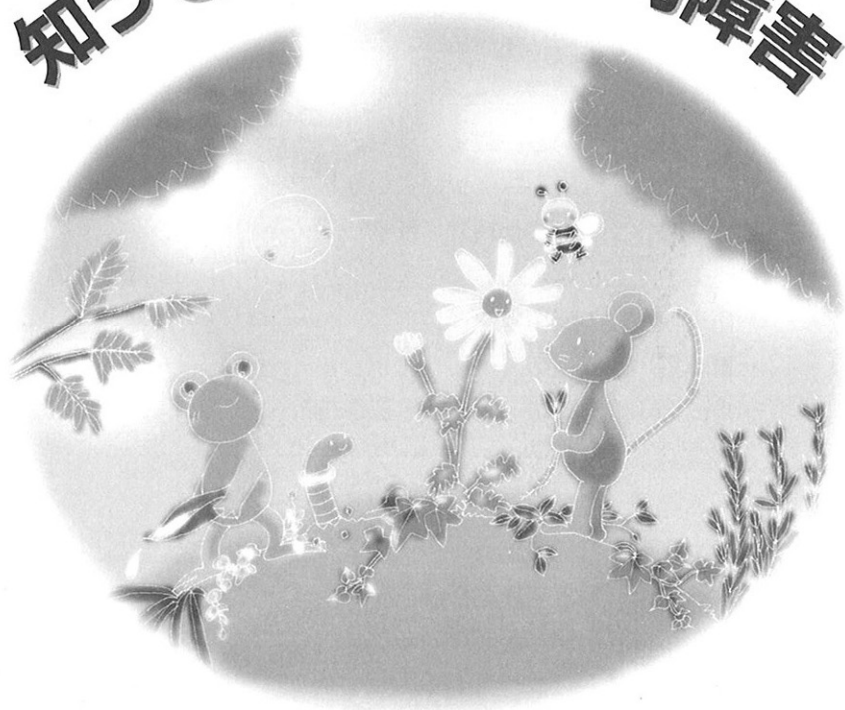
全日本手をつなぐ育成会

KEIRIN
00

競輪補助事業

あなたも 今日から サポーター

知ってほしい! 知的障害



全日本手をつなぐ育成会

目 次

あなたも 今日から サポーター	4
わが子 健太の誕生	5
うちの子は遅れてるの!?	6
保育園・幼稚園時代	8
小学校時代	10
学校で学んでいること	12
ケンちゃんはこの学校に通いました	14
うちのケンちゃんを紹介します	16
町の中でこんなことも	18
青年期・成人期の『働く場』	20
青年期・成人期の『くらしの場』	24
青年期・成人期の『趣味・余暇の場』	26
障害ってなに?	30
知的障害ってなに?	32
じゃ、ひとりだち・自立ってなに?	34
どんな子ども・大人たちなの?	36
こんな行動にはこんな意味が…	
～「ここだけ少し」の手伝いを!～	38
あなたも 今日から サポーター!	40
コンビニや商店街の皆さんもサポーターに!	42
かかりつけ医がいますか?	44

消費者被害にあっていませんか？……………	46
街の警察官もサポーターです……………	48
「子どもたち、よろしく！」キャラバン隊……………	50
ぼっぼやパンフを知っていますか？……………	52
そして、ご近所プロジェクト……………	54

コラム

コラム 障害を告知されて	7
コラム 親の願い「みんないっしょに通いたい」	9
コラム 親子の願いが実現できるように	11
コラム 「特殊教育」から「特別支援教育」へ	13
コラム 「作業所って何？」	22
コラム 地域をつなぐ、人をつなぐボランティア！	28
コラム 障害とは暮らしにくさ	31
コラム 社会人として自立	33

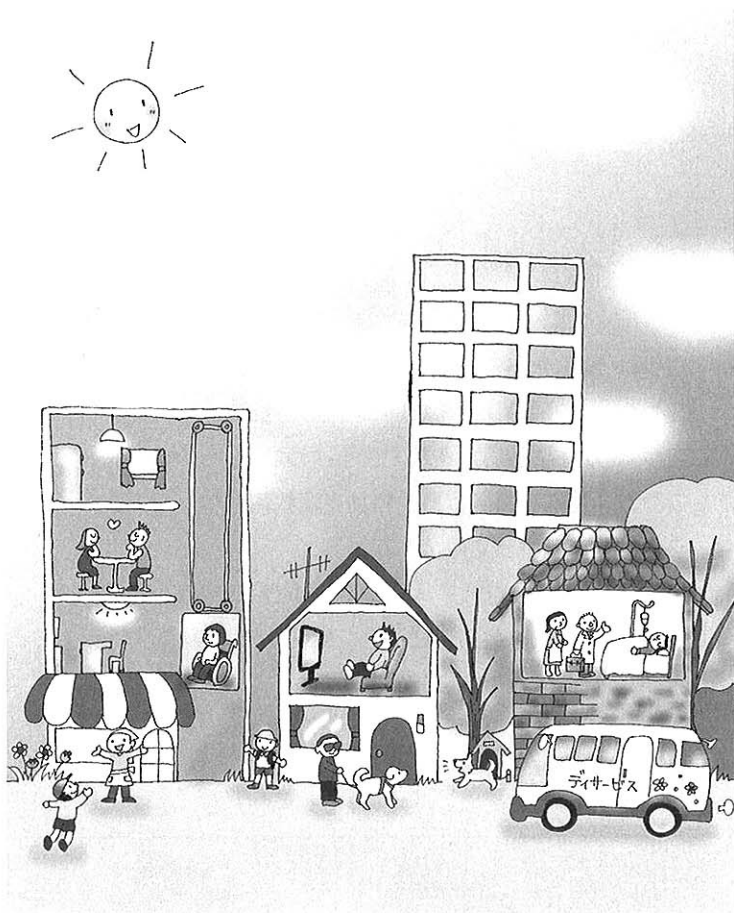
あなたも 今日から サポーター

みなさんの身近なところに「障害」のある方はいますか？

ご近所や親戚、あるいは家族にいるという方もいらっしゃるかもしれませんがね。

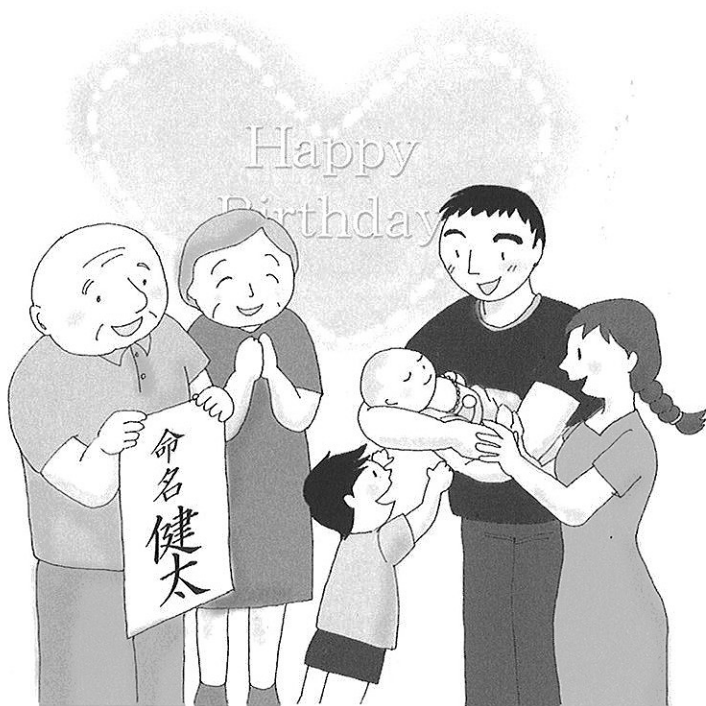
このハンドブックは、みなさんの隣で暮らしている障害のある子や大人たちのことをわかっていただきたいと思います。編集したものです。

あなたもぜひ、サポーターになってください。



わが子 健太の誕生

ある晴れた日の朝、待ちに待った赤ちゃんが生まれました。
少し産声が弱く心配をしましたが、
とにかく生まれてホッとしました。
パパはもちろんのこと、
お兄ちゃん、おじいちゃん、おばあちゃんも、大喜びでした。



健康に育ってほしいと願いを込め、
「健太」と名付けました。

うちの子は遅れてるの!?

生まれてまもなく、健太のようすが、お兄ちゃんと違うかなと感じ始めました。生後6カ月ころまでは、お乳を飲む力も弱く、また、飲んでもすぐに吐いてしまうことがありました。当初でいた「バァーバァ」等のことばも、いつの間になくなってしまいました。その上健太は、なかなか視線が合いませんでした。



すこし遅れているだけ、と考えていましたが、2歳近くになっても、歩くことができませんでした。ケンちゃんは障害があるの？ 3歳児健診で知的に遅れのあることがわかりました。

障害があるとわかったとき、とてもショックでした。でもケンちゃんの寝顔を見ているうちに、「私がくじけたら健太はどうなるの、この子と一緒に生きていこう」と決心をしました。私の唯一の望みは、家族の一員として健太が元気に育ってほしい、ということでした。



コラム

障害を告知されて

告知の時期は人それぞれ。生まれてすぐに分かる人もいれば、何か変？ とは思いながらも、大人になるまで知らされなかったり、気づかなかったり。

それは家族にとって信じがたいことであり、あってはいけないこと。「なぜ？」「どうして？」「何も悪いことしてないのに……」。先天的・出産時・後天的、いろいろな場合がありますが、とても言葉では表現しがたい衝撃でした。

一般的に「障害受容のハードル」を越えることが、実は私たち家族にとって、特に母親にとっては最も高いハードルだと言われています。自分が生んだという事実。アクシデントを回避できなかった自分。そのことの責任が母親にあるわけではないのに。

我が子は我が子であるということより、命ある人間であるということより、「障害」ということへの恐怖と不安。どんな成長をしていくの？ この世の中に神様がいるならば……「せめて一日だけ、この子より長生きさせてほしい」と。心の底から「愛おしい」と思えるまでの年月も人それぞれ。



保育園・幼稚園時代

健太は、お兄ちゃんと同じ保育園に通わせることにしました。
最初はなかなか保育園になじむことができませんでした。
でも、ケンちゃんのために、
市が専属のパートさんをつけてくれました。
ステキな先生のおかげで、
少しずつ保育園で過ごせるようになってきました。



4～5歳はイタズラ盛りです。
ケンちゃんは人一倍動き回ります。
友達の輪にはなかなか入っていきませんが、音楽、ダンスのときは、一番元気に踊ることができます。
ときには先生を困らせるケンちゃんですが、元気いっぱいの人気者です。



コラム

親の願い「みんないっしょに通りたい」

障害のある子の親の多くは、地域の保育園や幼稚園に子どもを通わせたいと思っています。きょうだいや近所のお友だちなど、障害のない子どもたちがふつうに通っている近所の園で、いっしょに遊べる生活がいいと思っています。これから先もずっといっしょに遊び、ともに生きていってほしいと願うからです。

少し前までは、保育園や幼稚園に入園を断られることがよくありました。「うちは障害のある子を見ることができない」「手が足りない」。あるいは「障害のある子は専門の療育機関で治療を受けるべきだから」という理由を言われることもありました。今でも、まだあります。でも、このごろは少し違います。

保育園や幼稚園の保育士や園長さんたちが、「障害があってもなくても、子どもは地域でいっしょに大きくなったほうがいい」と考えるようになったからです。今では多くの保育園や幼稚園に、障害のある子どもたちが通っています。珍しいことではなくなりました。これを「いっしょの保育」と言います。自治体によっては、障害のある子どもが園に通うことになると、保育士を加配するなどの特別の支援が得られます。

こうした行政の配慮や、園長さん、保育士さんの皆さん、それに「いっしょの保育」でともにどろんこで遊んでくれる仲間やその親御さんたちのさりげない理解があることが、障害のある子どもたちや家族を勇気づけてくれるのです。これからももっとそうなってほしいと思います。

小学校時代

ケンちゃんもいよいよ小学校入学です。

おじいちゃん、おばあちゃんに買ってもらった

真新しいランドセルを背負って、ちょっと誇らし気です。



お父さんとお母さんさんは、ケンちゃんを通う学校について、保育園の先生やお医者さんや教育委員会の人たちと相談して、お兄ちゃんと同じ小学校に通うことに決めました。

幼稚園のときのお友達で、障害のあるともちゃんは、同じ学校の

特殊学級に通うことにしました。

みんな、ぴっかぴかの1年生です。



障害のある子どもたちは、主に以下の学校に通います。

- ①通常学級
- ②特殊学級
- ③養護学校

コラム

親子の願いが実現できるように

小学校への就学を前にすると、障害のある子どものほとんどの親は、戸惑い悩みます。子どもの人生においてはじめての「選択」を強いられるからです。これからの12年間、どこでどんな教育を受けることが我が子には必要なんだろうか、と。

障害のある子の親といっても、我が子の障害がわかって3年かそこら、まだまだ親も親になりきれていない時期です。なにか、この選択で我が子の一生が決まってしまう、そんな目に見えない不安に襲われることも少なくありません。

学校を卒業した後の長い人生を考えたとき、どんな学校生活を考えたらいいのでしょうか。ある親御さんは考えました。「顔見知りのご近所同士の関係を大事にしたい。地域の身近な友達とずっといっしょに、大きくなってほしい。だから、近所の小学校に通わせたい」。あるいは、ある親御さんは「学校を卒業したあと、自分のやりたい生活を、自分で楽しめるような育ちや学習をぜひしてほしい。だから個別の教育を受けられる養護学校や特殊学級に通わせたい」と考えました。

どちらも大事な選択です。どんな人生を親子で歩むのか、ゆっくり納得のいくまで考えていただきたいですね。

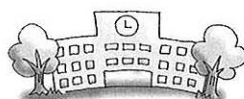
「私たち、まわりのものができるのは、そんな貴重な親子の願いと選択が実現できるよう最大限の支援を準備しておくこと」。最近、こう考えてくれる教育委員会や、学校の校長先生、担任の先生、同じクラスの子どもたちや親御さんが増えてきた気がします。

学校で学んでいること

Q. 知っていますか？

●知的障害のある子どもも近くの学校で学んでいるの？

- A. 知的障害のある子どもは、近くの学校でも学んでいます。できるだけ障害のない子どもたちと一っしょに、地域の学校で教育が受けられるようになってきています。



●特殊学級や養護学校での勉強は？

- A. 基本的には障害のない子どもたちと同じです。
一人ひとりに適した指導を受けながら、国語、算数、体育、音楽等々、それぞれ時間割にしたがって勉強をしています。



●授業以外の時間や放課後などは、どうしているんですか？

- A. 休み時間などは、みんなと一っしょに外で遊んだり、一人でゆっくり過ごしたりします。障害のない子と同じです。放課後には、好きな音楽やパソコンなどの部活動で活躍している子もいます。

小学校低学年のうち放課後に学童保育に通う子もいます。けれど、障害のある子が通える学童が少なかったり、せっかくあっても学校から遠くて一人で行けず利用できないこともあります。一人で放課後を過ごすのは淋しいです。みんなと一っしょに遊べる場をぜひつくってあげたいですね。

コラム

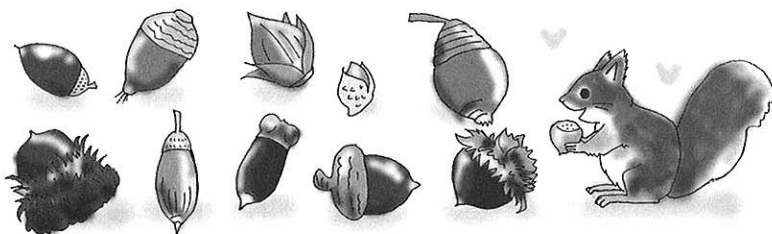
「特殊教育」から「特別支援教育」へ

障害のある子どもたちは、今まで、その障害の程度に応じて、「養護学校」や「特殊学級」及び「通級」などの『特別な場による教育』を受けてきました。その数は、児童・生徒全体の約1.48%にあたります。

しかし、医療等の進歩に伴い、児童・生徒の障害の多様化や重度化とともに、通常学級に在籍する発達障害（LD, ADHD, 高機能自閉症等）のある子どもたちの教育的支援についても、その必要性が注目されるようになってきました。その数は、約6.3%とされています。

そこで、一人ひとりの『ニーズに応じた教育』をめざし、今までの特殊教育諸学校に通う児童・生徒に加え、通常学級に在籍する児童・生徒への支援を行うため、『特別支援教育』への転換を図っています。具体的には、「特別支援学校」「特別支援教室」(仮称)により、児童・生徒一人ひとりのニーズに応じた柔軟な教育的支援が行われることとなります。

これからは、身近な地域の学校で、その子にあった学習内容を、必要な時間受けられるようになることが期待されています。



ケンちゃんはこんな学校に通いました



誕生～保育園時代

★僕が小さいときは、お父さん、お母さんが心配して、いろいろな病院に相談に行ったんだよ。

★発達に遅れのある子どもが通うあけぼの学園では、身の回りのことを、丁寧に教えてもらったよ。
★それから、近くの保育所に通って、たくさんのお友達ができたんだ。

小学校時代

★国語や算数を、ゆっくり、僕のペースで、教えてもらっているんだ。

★体育や音楽は、たくさんのお友達と一緒にだよ。



僕の通った学校

- 《4歳～》 あけぼの学園
(就学前 障害児通所施設)
- 《5歳～》 中央第1保育園
(生活している地域の保育園)
- 《6歳～》 中央小学校
(生活している校区の学校)
- 《12歳～》 中央中学校
- 《15歳～》 霞ヶ関養護学校 高等部



★保育園のころは、
本当に、
落ち着きがなかったわ。

★元気すぎるくらい、
元気な子どもでした。



★やんちゃで、
対応に
苦慮したことも
あったけど、
居るだけで、
クラスが、
和やかになったね。

★学校でも、
近所でも、
みんなに愛される
人気者だったよ！



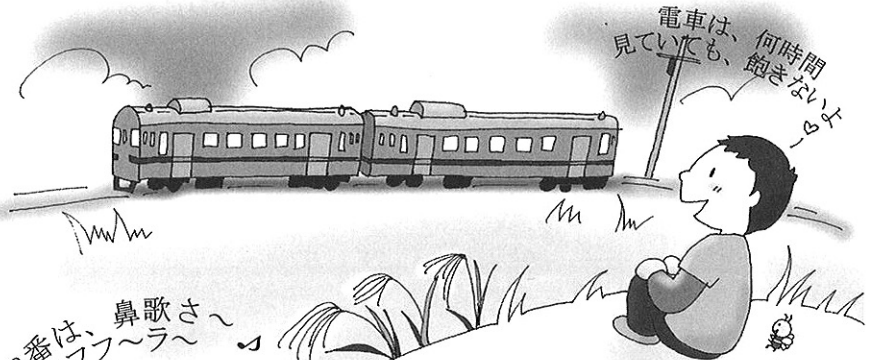
★平均的な
子どもたちとは、
ちょっと、
違ったけれど、
ケンのペースで、
いろんなことを
学び、
成長して行って
くれたんだ。



★ケンちゃんは、
いつでも、みんなを
元気にしてくれたよ



うちのケンちゃんを紹介します

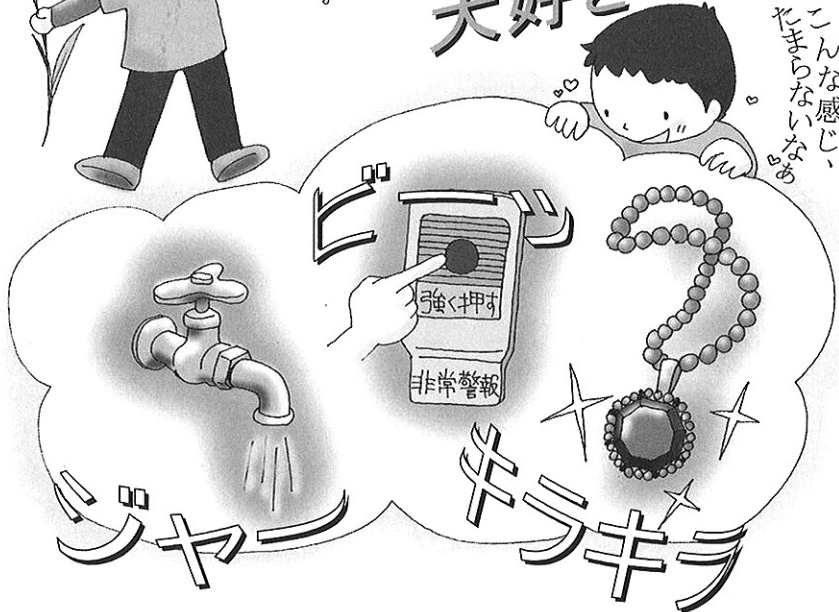


♪18番は、鼻歌さ〜
フフ〜ラ〜



ケンちゃんば、
こんなことが
大好きです

こんな感じ、
たまらないなあ





乗っても自転車に、
気持ちいい感覚が、
気持いい感じが、
ビュ〜という感覚が、
乗ってもいいなあ、
乗ってもいいなあ、
乗ってもいいなあ、
乗ってもいいなあ、
乗ってもいいなあ、

一番はまっているのは、ゲームなんだ。
早く家に帰って、やりたいよ！



知的障害のある子どもたちも、考えていることや好きなことは変わりません。みなさんと同じです。

ただ、少し夢中になりすぎて、まわりのことが見えなくなってしまうことがあります。

長い時間電車を見ていたり、ジーっと人の顔を見つめていたり…不思議に見えるかもしれませんが、それぞれ意味のある行動だったりするのです。

それは彼らなりの「こだわり」なのです。

町の中でこんなことも

障害のある子どもには、こだわりが強かったり、多動（動き回る）の人もいます。

例えば

子どもたちが大好きな遊園地。
ところが、ケンちゃんは地面に寝っ転がって大泣きです。
まわりの人は何があったんだろう、とケンちゃん親子を遠巻きに見ています。



ケンちゃんは、どうやらある遊具が気に入っているようです。
だからその場所を離れたいなかったのです。
お母さんはケンちゃんにわかりやすく、ゆっくりと
「次は〇〇だよ」「それが終わったらごはんだよ」等と
話しかけています。



こだわりのある子どもに対しては、行動の見通しを提示してあげることが有効です。
次の行動がわかることによって、落ち着くことがあります。



たくさんの家族が遊んでいるプール。

でもケンちゃんは走り回ったり、水をばしゃばしゃ！

みんなが並んでいるすべり台もわりこみをしてしまいます。

ついに、プールの監視員さんから注意をされてしまいました。

障害のある子どもたちもプールは大好きです。つい、うれしさのあまり、まわりの人の迷惑を考えることができなくなっているのです。

自分の好きなこと、やりたいことに熱中してしまい、まわりの人の迷惑に気がつかなかったり、順番を無視してしまっているようです。

子どものうちは、まわりの人への迷惑を考えられなかったり、ルールを守ることが難しい子どももいます。

しかし、年齢が上がるにつれ、障害のある人も社会性を学んでいきます。



【街の人の声】

わが家の近くに養護学校があります。学校に通う子どもたちの中には、いろいろな子どもがいるな、と思っていました。

ある子どもは、我が家の犬に必ず「あいさつ」をしています。最初はどんな子どもたちなのか心配な部分もありましたが、よく見ていると、ちょっと変わった子どももいますが、みんな普通の子もたちなんだな、とよく分かりました。今では、文化祭や運動会をのぞかせてもらっています。